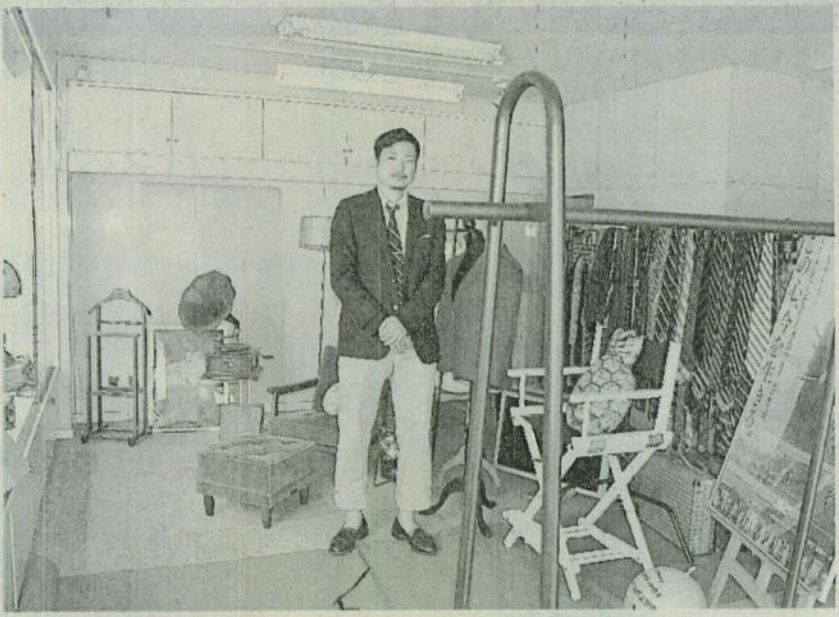
空き店舗から活気 描くストーリーは

「事業計画を立てずに想いだけでハンコを押してしまった」。街中にあるビル1階の空き店舗に、新たな借り主が書いた一枚の貼り紙がされている。後にはこう続く。「『こんなものがあったらいいな』という声をお聞かせください」。無謀にも見える行動に踏み切った「想い」とは何なのか。



高野宙さん（中央）が趣味で収集したという家具類や衣類、蓄音機が並ぶ店内＝いずれも長岡市城内町3丁目

借り主の映画監督・高野さん 地元長岡で

もともとギョーザの無人販売所が入っていた。移転から3カ月後の3月初め、看板が外され、シャッターも閉まったままの店舗のガラス窓に、貼り紙は登場した。

書いたのは、映画監督の高野宙さん(35)。大阪芸術大を卒業後、米国に渡り映画学校の修士課程を修了。ロサンゼルスで映画作家やアートディレクターとして活動していたさなか、コロナ禍に見舞われて仕事が激減し、地元に拠点を移した。

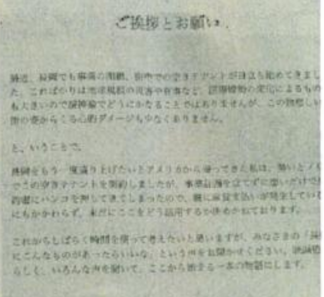
疲弊しているのは、ここ長岡市も同じだった。飲食店や物販店、事業所が次々と休業に追い込まれ、街中にはくしの歯が欠けるように空き店舗が増えていった。市によると、10年ほど前に200カ所弱だった中心街の空き店舗は、コロナ禍で加速度的に増え、2021年度は約300カ所になった。

「もの悲しい街の姿からくる心的ダメージは少なくない」。そう感じ、「地元をもう一度盛り上げたい」と考えた。そんなとき出合ったのが、JR長岡駅に近い住宅街の空き店舗だった。

側面に大きな横長のガラス窓がある。「映画のスクリーンの形をしたカメラの画角のように見えた。この窓を通して、空き店舗が人の集まる場所になるまでのドキュメンタリーをつくりたい」と思いついた。

「勢いとノリで」、すぐに賃貸契約を結んだのはいいものの、具体的な使い道は何もなかった。だから、「あったらいいな」と思うものを教えてほしいと貼り紙に書いた。

駅近くにある空き店舗。通りに面して大きなガラス窓が配置されている



ご挨拶とお願い

空き店舗の貼り紙

「あったらいいなを教えて」貼り紙 利用者募る

一角にカフェバーを設け、訪れた人たちから「自分の物語」を聞かせてもらったり客同士で交流したりできる空間にしたい。ただ、改修などでまだ時間がかかる。それまでの間、何かにチャレンジしようとする人を応援する場所に使おうと決めた。

さっそく利用希望が届いている。20代の女性グループは4月8日に1日限りのおにぎり店に挑戦する。「近くに朝食を食べられるお店が欲しい」と思っていた。抽象画を描いている男性は「個展を開きたい」と申し出た。

高野さんは、店の前を通りかかる人の興味を引いて貼り紙を見てもらおうと、新たに、趣味で集めてきたアンティークの食器や蓄音機、閉館した映画館の客席用の椅子などを運び込んだ。「多くの人たちは『街中の店がどんどん閉まっている』と不平不満しか言わない。それを変えるには、大人がリスクを負ってやってみせることが必要。長岡でもいろんなことができるんですよと伝えたい」

街に元気を取り戻すドキュメンタリー作品の制作が動き出した。

店舗に関する問い合わせは高野さんのツイッター（https://twitter.com/hiroshibrahma）へ。（白石和之）

●信濃川に男

代か　23日午前　新潟市秋葉区　で、漁をしてい　のようなものが　るのを見つけ、　た。署によると　いたのは身長1　性の遺体で、　れ、グレー色の　Tシャツを身に　う。署は遺体の　べるとともに身　ている。

郷土力士星取表

【幕下】

【三段目】

【序二段】

の価値を創造する
リューション &